

## 「アジアを生きる」

父が読んだと言っていたアジアを生きるを読んだ。  
この手の本は読みなれてないので、さらっと流すところも多かったけど、  
なんとなく普段耳にするアジアに対する見方について、  
征韓論や脱亜論なども持ち出して解説されていたあたり得心した。  
あとは、やっぱりどうしても二分法的な見方をしちゃうなあ / しているなあ、ということ認識。

グローバルな普遍的価値、どう身につけていけばいいんだろうなあ。  
後半 横井小楠の話がつらつらと出てくるあたり、著者の中の熊本郷土愛を(勝手に)感じるなど。

横井小楠 ... 尊敬する人だけど、よくある日本史の中では地味な扱いなので嬉しい。

ところで、関連項目調べてて、いまさらながら、熊本県立熊本中学校(旧制)に  
第二済々黌ではない学校の名前として使われていたことを知った ...